

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

総合学科の特性を活かし、進学型の総合学科として新しい時代に求められる資質・能力を身につけた人物を育成する学校。

- 1 主体的、対話的で深い学びを通し、「確かな学力」を身につけさせる。
- 2 生徒自らが主体性を持って思考し判断し、自分の考えを論理的に表現・発表できる授業を実践する。
- 3 キャリア教育を通して、将来社会の一員として活躍しようとする姿勢、自己を実現する姿勢を醸成する。
- 4 生徒一人ひとりが個性を輝かせ、多様な人々との違いを認めあい、協働して学び、人間力を高めあいながらともに成長する態度を育成する。

## 2 中期的目標

## 1 新学習指導要領の理念を踏まえた、生徒の「確かな学力」の育成及び教員の授業力の向上

- (1) 「生徒の論理的思考力を伸ばす授業」「生徒が主体性を持って参加する授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 「生徒の思考を促す授業」をキーワードに、互見授業や授業公開をより活性化して教員間で授業力を高めあい、また、授業アンケート結果を効果的に活用して、研究授業や研修等に組織的に取り組み、主体的、対話的で深い学びの実現をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断（設問2, 3平均）における「授業理解度」（H29年度 62.9%、H30年度 58.0%、R1年度 56.3%）を令和4年度には75%以上にする。

イ ICTの活用に取り組み、生徒の知識の定着を図るとともに生徒が課題意識を持ち自ら解決する姿勢を育てる。

※ICTを利用して授業を行う教員の割合令和4年度50%以上をめざす。（R1 46%）

## 2 夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路指導の充実

- (1) 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」等の内容とその成果を吟味し、キャリア教育の体系的な全体指導計画をより一層効果のあるものにする。

ア 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を核にして、自らの将来をしっかりと考えさせるとともに、論理的に考え、考えをまとめ、自分の言葉で発表する力を身につけさせる。

※生徒向け学校教育自己診断（設問7）における「キャリア教育に関する充実度」（H29 66% H30 71% R1 71.9%）を令和4年度には75%以上にする。

- (2) ア グローバル人材の育成に資するため、海外修学旅行の推進を継続する。また、国際交流や語学研修を継続し生徒にグローバルな視点や姿勢を身につけさせるとともに、英語を話すことへの生徒の苦手意識を払拭させたい。

※「海外修学旅行の満足度」に関する生徒向け・保護者向けアンケートにおいて、令和2年度以降ともに肯定率90%以上を維持する。

- (3) 確実な進路実現につながる進路指導ができるよう、進路指導に関する3年間の全体計画を充実させる。

ア 進路指導に関する3年間の全体計画を充実させるとともに、生徒・保護者に対して情報提供をきめ細かく行い、家庭と学校との連携を密にする。

※学校教育自己診断（設問6）における「進路指導に関する満足度」（H29 生徒 52.5%保護者 59.1% H30 生徒 86.6%保護者 77.1% R1 生徒 89.0 保護者 77.9%）を令和4年度には生徒・保護者ともに80%以上にする。

※国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計について、100名以上をめざすと同時に、共通テスト出願者数について、100名以上（令和元年度 115名）をめざす。

## 3 安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底

- (1) いじめをはじめとする人権侵害事象が起こらないよう、すべての教育活動を通じて、生命や人権を大切にすることを徹底する。

ア 平成25年度に定めた「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、「いじめの起こらない」学校づくりを推進する。

※アンケート「安全で安心な学校生活を過ごすために」をより一層有効活用し、いじめ事象（それに準ずる事象を含む）の早期発見解決に努める。

- (2) カウンセリングマインドを伴った生徒指導を徹底し、安全・安心で居心地のよい学校環境づくりを推進する。

ア 共生推進教室をめぐる取組みを充実させるとともに、知的障がいや発達障がいはじめとする配慮を要する生徒等への対応に関する研修を行い、「合理的配慮」を意識して、生徒に対してよりきめ細かい対応ができる体制を構築する。

イ より一層、教育相談室やSCの存在を生徒・保護者に周知するとともに、配慮を要する生徒等に全教職員が関与する体制をつくり、教育相談機能全般の充実を図る。

※学校教育自己診断（設問13）における「教育相談機能の充実度」（H29 生徒 62%保護者 54.7% H30 生徒 86.6%保護者 77.1% R1 生徒 54.3%保護者 52.5%）を、令和4年度には生徒・保護者ともに70%以上にする。

- (3) 遅刻を減らし、安定した生活リズムで学校生活を送れるようにするとともに、挨拶・服装等を含め、生徒の生活規律の力を向上させる。

ア 他校の実践に学ぶなどして、効果のある新たな取組みを導入し、学校全体で遅刻減少のムードをつくる。

※年間延べ遅刻者数（H29 2017件 H30 2061件 R1 2076件）を令和4年度には1800件以下にする。

イ 挨拶・服装を含め、生徒の生活規律の向上に取り組み、生徒全員が学業に専念できる雰囲気づくりに取り組む。

## 4 広報活動の充実

- (1) 中学生や中学校、教育産業等に対して、進学型総合学科としての本校の教育活動を広報するための取組みをさらに強化する。

ア 学校案内のリーフレットに加え、広報誌「芦間ニュース」を、内容をより充実させて継続発刊し、中学校等へ配付する。

イ 生徒・保護者対象のオープンスクール、中学校や教育産業の教員対象学校説明会の内容の充実を図り、参加者数の維持・増加をめざす。

※オープンスクールや学校説明会への参加者数の合計（H29 約1250名 H30 年度約1,400名、R1年度約1,400名、）を、1,400名以上に保つ。

※志願倍率（平成30年度選抜 1.29倍、平成31年度選抜 1.18倍、令和2年度 1.29倍）を、恒常的に1.20倍以上に保つ。

## 5 計画的な備品等の更新

- (1) 新たな取組みに必要な備品等や老朽化してきた備品等を計画的に更新していく。

## 6 働き方改革

- (1) 教職員の時間外勤務の縮減、年休取得を推進する。

※校内の各会議の所要時間について、50分以内を目標とする。また、8月に連続5日間の準閉庁日を設け、夏季特休や年休の取得を推進する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施]	学校運営協議会からの意見
<p>各設問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」「わからない」の5つの選択肢から回答を選ぶ形式でアンケートを実施した。「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合を「肯定率」として、判断の基準とした。</p> <p>○高校生活全般について</p> <p>・概ね、「芦間高校に入学して良かった。」と感じているのは嬉しいことである。特に、3年生が2年次の値より増加していることが特徴的である。一方、1割程度、否定的な生徒もおりその原因を探り、対応を検討していきたい。</p>	<p>○第1回 令和2年7月15日(水) 午前10時～午前11時 臨時休業中の取り組みについて</p> <p>・とてもよい取り組みができていた。先が見えない中、教員間での話し合いばかりにならず、学習支援クラウドサービスについて声を上げる教員グループがあったこと。個人懇談を実施して一人一人と向き合われたこともよかった。学びを止めない動きの取り組みはとても良かった。ICTの導入は生徒たちには、利益となり、学習の定着につながる。教員のスキルが大切で、授業力向上につなげていただければと思う。塾業界の動きでも郵送→オンライン（web会議システム）を導入。</p>

## ○教科・科目の学習について

- ・「授業は、分かりやすい」については、生徒、保護者ともに肯定率に変化はない。一方、教員は ICT 機器の活用等、指導方法の工夫、改善を行っていると考えており、その差は大きい。「わかりやすい」かどうかについては、求める学習レベルにもよるが、進路実現に向けて高いレベルの学習内容をわかりやすく伝える工夫が、更に必要と考えられる。
- ・家庭学習については、増加したと感じている生徒が半数を超えた。臨時休業中の課題などで家庭での学習時間が増えたと考えられる。これを機に、家庭での学習を定着させるためにオンライン学習の活用を考えたい。進学型総合学科をめざすうえで結果につながるようにしたい。

## ○科目選択について

- ・休業期間もあり、例年より時間をかけることは出来なかったが、肯定率は上昇。今後も一人一人に合った指導ができるようさらに改善していく。

## ○進路指導やキャリア教育について

- ・「進路指導について考える機会」の肯定率はおおむね例年の通り、肯定的意見が高く問題はない。この状況を維持していくことが大事である。
- ・「キャリア教育」についても、おおむね例年通りの結果。コロナ感染症の影響で発表などが計画通りに実施できなかったことが残念。

## ○生徒指導、教育相談、人権教育等について

- ・「生徒指導の方針は理解できる。」の生徒の肯定率 54%で数値だけを見ると高いとは言えないが、肯定率は増加し、否定率は減少している。生徒指導という性質上やむを得ないと考える。また、現在の生徒指導方針は落ち着いた学習環境を構築する上で最低限の方針だと考える。今後も指導の必要性をしっかりと説明し理解させることに取り組みたい。
- ・「学校行事」について肯定率は高いが、今年度はコロナ感染症の影響で中止、規模縮小が多く、残念であった。
- ・教育相談については、肯定率が上昇。「相談室だより」の発行や学年、保健室、教育相談委員が連携し必要であれば SC に繋ぐ体制を今後も維持したい。
- ・「いじめ対応」に関しては、肯定率は高くはないが否定的な意見も少ない。「わからない」が最も多いのはいじめに直面することがあまりないからであると考えられる。しかしながら、見えないところで起こっている可能性もあり、日頃の指導により、生徒の意識を高め、未然に防ぐことで、否定的な意見を 0 に近づけるように努力したい。

## ○働き方改革について

- ・社会全体で働き方改革が求められる中、本校においても夏期閉庁日を 8 月中旬に 1 週間設け、また、週 1 日全校一斉退庁日を設けている。ここ数年、超過勤務の平均、人数ともに減少しており、一定の成果がみられる。

- しかし、本当に理解できているのかわかりにくい、また講師の説明も難しい。課題がある。
- ・学校経営推進費が獲得できたことも良かった。教員の士気が高まる。
- ・ICT についてだが、大阪府が言っているオンラインは、どこまでを言っているのだろうか。また、子供たちが SNS にどんどん関わる状況となり、親としてどのように見守ればよいか怖さと共に気になっている。
- ・休業の学力面への影響はどうだろうか。

## 令和 2 年度学校経営計画について

- ・学校経営計画再確認、令和 3 年度使用教科書について承認。
- ・これからの遅刻は気になるところ。
- ・休校になったことで、学校・進路への気持ちが変わった生徒がいるのではないかと。
- ・働き方改革というが、先生方への負担がかかっている。教員が定時に帰れるのは難しいのではないかと。大丈夫だろうか。
- ・進学について、大学受験が厳しい中、良い結果を出された。進学型の総合学科として貫いていただきたい。修学旅行は、海外に行けずかわいそう。
- ・中学校では、ICT が整ってきている。高校とつながるかどうかが気になるところ。
- ・新しいことを始めるときは大変だが芦間では、チーム学校が実現できているのかなと思う。
- ・今回の休業については、何かしなければという思いが全員に合せてまとまったのだろう。チームで取り組むことで成果が出るという動機付けになってくれたらと思う。

## ○第 2 回令和 2 年 11 月 21 日(土) 午後 2 時 45 分～午後 5 時

## 第 2 回オープンスクールについて

- ・この状況の中、生徒が主体となってとてもよいものだった。
- ・クラブ紹介動画を生徒作品であるように、制作は・・・と最後にテロップを付けるなどするとともに生徒中心であることが伝わると思う。
- ・司会を含め、語る生徒たちの滑舌の良さがすばらしい。
- ・感染症対策をとってのよく構成されていた。
- ・動画、プレゼンテーションソフトともに中学生の目線を意識したものでよかった。
- ・共生推進教室のことが、全体会ではない。あつてもよいと思う。

## 令和 2 年度学校経営計画の進捗状況について

- ・今年度は、いつもと違う状況の中、よく頑張っておられる。
- ・今年度は、年度当初の目標が達成できたかどうかを気にかけなくてよい。
- ・第 1 回授業アンケートの実施時期が、学校再開から 1 か月半なので、達成できたかどうかは、第 2 回のアンケートで比較できるのではないかと。
- ・広報活動については、ホームページを充実することに取り組まれたとのこと。分掌として総務文化部ががんばってくれたことはうれしいことですね。
- ・欠席・遅刻に関しては、説明にあったようにコロナのことがあり、例年とは比較できない
- ・働き方改革については、臨時で行う会議も多いであろうし、時間がかかることもあろう。目標にされている時間達成ができないことは仕方ない。それよりも先生方が疲れていることへのケアが必要ではないかと。
- ・土日に地域の図書館へ勉強しに行っている生徒がいるようだ。学校の図書館を活用できないか。PTA と連携できるかもしれない。
- ・地域の図書館で勉強することは、コロナの関係では、移動の少ないという良いところがある。勉強に集中する雰囲気もありこちらも良い。

## ○第 3 回令和 3 年 2 月 13 日

## 令和 2 年度学校評価について

- ・全体的に良い数値である。コロナ感染症の中、良く頑張っている。
- ・教員アンケートでいじめへの対応など 100%肯定になるべき項目で少数の否定的な回答があることに問題意識をもって取り組むべきだ。
- ・進学へ向けていかに学力をつけるかが課題。
- ・HP の情報量が多すぎるので、見やすくする工夫が必要。

## 令和 3 年度学校経営計画について

- ・働き方改革は長時間労働解決だけではない。「生き生きと仕事ができる職場」という目標も掲げて欲しい。目標を追加することで承認。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上 1 新学習指導要領の理念を踏まえた	<p>(1) 管理職と教員が一体となり授業改善に取り組む。</p> <p>ア 研究授業や校内研修による授業改善の推進、授業アンケートを活用した授業改善の取組みの実施、ICT 利用促進</p> <p>(2) 家庭での学習習慣を身に付けさせるための取組みの推進</p> <p>ア データ分析から効果的な取り組みを策定する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業力向上に関する校内研修を実施するとともに、互見授業を一層活性化し、教員が授業改善に向けてより気軽に相談し合える雰囲気を醸成する。</p> <p>・各教科が、「わかる授業」「生徒の思考を促す授業」をテーマとした研究授業に取り組む。また、授業アンケート結果に基づき、課題の分析、解決のための改善策を策定する。さらに、ICT 利用拡大に取り組む。</p> <p>・管理職は授業観察の結果を教員にフィードバックし、「わかる授業」確立のための指導助言を行う。</p> <p>(2)</p> <p>・家庭での学習習慣を身に付けさせるための効果的な取組みを引き続き検討する。生徒各 1 冊が「ジュエル手帳」で自己管理。</p> <p>ア・外部の「学力生活実態調査」を実施・分析し生徒の家庭学習時間増へつなげる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)における「授業理解度」60%以上(令和元年度 56%)。</p> <p>・第 2 回授業アンケートの「全校・全教員共通質問項目(⑧⑨)」の肯定率が 2 項目ともに 70%を切る授業(常勤のみ)の延べ講座数 40 講座以下(令和元年度 56 講座)。</p> <p>・第 2 回授業アンケートの「質問項目 3～9 の評価の平均値」の全教員平均 3.2 以上(令和元年度 3.17)。</p> <p>・ICT 利用教員 50%以上。(令和元年度 46%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断における「家庭での学習時間の充実に関する項目」の肯定率の平均 55%以上(令和元年度 44%)。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)における「授業理解度」64.9%。(○)</p> <p>・第 2 回授業アンケートの「全校・全教員共通質問項目(⑧⑨)」の肯定率が 2 項目ともに 70%を切る授業(常勤のみ)の延べ講座数 36 講座。(○)</p> <p>・第 2 回授業アンケートの「質問項目 3～9 の評価の平均値」の全教員平均 3.29。(○)</p> <p>・ICT 利用教員 61%。(○)</p> <p>・相互授業見学週間の実施(10/23-11/6)。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断における「家庭での学習時間の充実に関する項目」の肯定率の平均 51.4%。(△)・学習支援クラウドサービス活用で肯定率は上昇しているので引き続き活用。</p>
2 夢と志を育むためのキャリア教育及び進路指導の充実	<p>(1) キャリア教育の充実</p> <p>ア より一層効果のある全体指導計画の検討・再構築</p> <p>イ グローバル人材育成</p> <p>(2) 科目選択ガイダンス機能の充実</p> <p>ア 丁寧な選択指導</p> <p>(3) 進路指導の全体計画の充実</p> <p>ア 進路指導の全体計画の充実</p> <p>イ 生徒・保護者の希望やニーズに沿った進路実現</p> <p>(4) 生徒の人的成長</p> <p>ア 部活動参加促進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「産社」「総学」のより一層効果のある全体指導計画を検討し再構築する。</p> <p>イ・平成 30 年度以降入学生についても、海外修学旅行や国際交流の推進を継続する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・科目選択の指導において、教務部と進路指導部と担任団の連携を強化し、生徒や保護者が満足するよう、丁寧に指導する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・確実な進路実現につながる進路指導ができるよう、進路指導に関する 3 年間の全体計画を充実させる。</p> <p>イ・進路指導システム「ASM サポートシステム」をより一層充実させる。</p> <p>(4)</p> <p>ア・人間力を高めるため、部活動参加を促す。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)における「キャリア教育の充実」の肯定率の平均 75%以上(令和元年度 72.0%)。</p> <p>イ・「海外修学旅行の満足度」95%以上。(令和元年度 94%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)における「科目選択指導のきめ細かさ適切さ」の肯定率 60%以上(令和元年度 60%)。</p> <p>(3)</p> <p>ア・学校教育自己診断における「進路指導の満足度」生徒・保護者ともに 88%以上(令和元年度生徒 89%保護者 78%)。</p> <p>イ・国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計が 100 名以上。</p> <p>・共通テスト出願者数が 100 名以上。</p> <p>(4)</p> <p>ア・新入学生徒の「部活動への加入率」85%以上(令和元年度 86.0%)</p>	<p>1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)における「キャリア教育の充実」の肯定率の平均 77.3% (○)</p> <p>イ・本年度は中止。(令和元年度 94%)</p> <p>* 次年度以降も感染症の状況をみながら海外修学旅行復活をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)における「科目選択指導のきめ細かさ適切さ」の肯定率 72.7% (○)</p> <p>(3)</p> <p>ア・学校教育自己診断における「進路指導の満足度」生徒 93.8%・保護者 80.9%。(△)・目標の 88%には届かなかったが、数値は上昇しているので取り組みは継続する。</p> <p>イ・国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計 71 名。</p> <p>・共通テスト出願者数 109 名 (○)</p> <p>(4)</p> <p>ア・新入学生徒の「部活動への加入率」70%。(△)</p> <p>・4.5 月の休業の影響が大きかった。次年度は DVD による部活紹介など感染症対策を考慮した取り組みを実施したい。</p>

## 府立芦間高等学校

<p>3 安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底</p>	<p>(1) 生命や人権を守る精神の徹底 ア 「学校いじめ防止基本方針」に基づいた学校運営 (2) カウンセリングマインドの徹底 ア 「合理的配慮」を意識したきめ細かい対応 イ 相談室の存在の周知等、教育相談機能全般の充実 (3)、生活規律力の向上 ア 遅刻減少等生徒の生活規律・自己管理の力の向上</p>	<p>(1) ア・平成25年度に定めた「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、「いじめの起こらない」学校づくりを推進する。 (2) ア・校内研修を行い、「合理的配慮」を意識して、障がいのある生徒をはじめとする配慮を要する生徒等の「困り感」の把握や解決により一層尽力する。 イ・より一層、教育相談室やSCの存在を生徒・保護者に周知するとともに、配慮を要する生徒等に全教職員が関与できる土壌をつくり、教育相談機能全般の充実を図る。 (3) ア・遅刻、挨拶、服装など、生徒の生活規律・自己管理の力を向上させる。</p>	<p>(1) ア・人権推進委と教育相談係とで連携し、生徒向け研修、教員向け研修を1回以上実施。 (2) ア・校内研修を1回以上実施。(令和元年度1回) ・特別支援教育委員会の機能を充実させ、年間5回以上会議を開催。(令和元年度5回) イ・学校教育自己診断における「教育相談機能の充実度」生徒・保護者ともに60%以上(令和元年度生徒54%保護者52%) (3) ア・生徒会等、生徒自らが企画する、遅刻減少に向けた取組みの実施。 ・年間延べ遅刻者数2,000件以下 (令和元年度2076件)</p>	<p>(1) ア・生徒向け研修「LGBT」について10/1実施。 教員向け研修「摂食障害について」10/14実施。 (○) (2) ア・校内研修を1回人推委と共催で実施。 ※「摂食障害について」10/14実施(○) ・特別支援教育委員会7回開催。(○) イ・学校教育自己診断における「教育相談機能の充実度」生徒66%・保護者58.5%。(△)・数値は上昇しているので取り組みを継続。 (3) ア・生徒会等、生徒自らが企画する、遅刻減少に向けた取組みの実施。 ・年間延べ遅刻者数1508件(○) 感染症影響あり。</p>
<p>4 広報活動の充実</p>	<p>(1) 広報の強化 ア 広報誌発刊 イ 説明会の充実 ウ HPでタイムリーなニュースの提供。</p>	<p>(1) ア・広報誌「芦間ニュース」を、内容をより充実させて継続発刊する(年1回)。 イ・オープンスクール2回、学校説明会2回の実施。校外での進学説明会に積極的に参加。中学校や塾の教員対象の説明会の内容を充実する。 ウ・常に最新の情報をHP上で提供し、芦間高校への関心を高める。</p>	<p>(1) ア・部活動や学校の特色を紹介する「芦間ニュース」の発刊。 イ・オープンスクールや学校説明会の実施。(令和元年度各2回)校外への進学説明会に積極的に参加。(令和元年度31回) ウ・入学者アンケートでのHP閲覧率90%(令和元年度89%)</p>	<p>(1) ア・「芦間ニュース」の発刊1回。(○) イ・オープンスクール1回、学校説明会1回の実施。校外への進学説明会への参加22回。(一) *コロナ感染症の影響で回数は減った。説明会の代わりに学校HPの「芦間高校で学びたいあなたへ」を充実させた。(○) ウ・入学者アンケートでのHP閲覧率93%。(○)</p>
<p>5 働き方改革</p>	<p>(1) 教職員の時間外労働縮減、年休取得促進</p>	<p>(1) ア・校内の各会議を50分以内職員会議は60分以内とする。校内掲示板で会議の内容を事前に把握するように周知する。 イ・8月のお盆期間中を準閉庁日とする。</p>	<p>(1) ア・職員会議での達成率60%。(令和元年度約30%) イ・期間中の休暇取得率90%。(令和元年度約90%)</p>	<p>(1) ア・職員会議での達成率53%。(△)・平均63分時間短縮への意識は高まっている。 イ・期間中の休暇取得率97%。(○)</p>